



Asian Productivity Organization “The APO in the News”

Name of publication: Shiga Prefecture (8 August 2013, Japan)

Posted on: 9 August 2013

Page: <http://www.pref.shiga.lg.jp/chiji/kaiken/files/20130806.html>

更新日: 2013年8月8日

知事定例記者会見(2013年8月6日)

平成25年8月6日
(県政記者クラブ主催)

知事

みなさん、おはようございます。

今日8月6日は68年前に広島に原爆が落とされた、その日でございます。8時15分には私も1分間の黙とうを捧げ、原爆死没者の皆様のご冥福をお祈りさせていただきました。あらためて、世界からの核兵器の廃絶を、広島から、また長崎から訴えていただきたいと思います。

さて本日1点目は、暑い夏を吹き飛ばすような滋賀の魅力いっぱい、食材の話をさせていただきます。既に馴染みだと思います「おもしろいしが」キャンペーン5周年となりました。その5周年を記念いたしましてキャライベントをご紹介します。

ちなみに、ちょっと失礼して、これがキャライベントの法被でございます。でも「おもしろいしが」キャンペーンの話をさせていただきます。

ちょうど5年前の9月から県内の食品関連事業者の皆様と一緒に、滋賀の地産地消を推進する「おもしろいしが」キャンペーンを始めました。背景は2つあります。

1つは滋賀県の食材というのは、京漬物の材料であったり、あるいは京野菜として出ていたり、どちらかというと縁の下力持ち、名前あるいはブランドがありませんでした。そういうところから改めて滋賀の食材あるいは材料だけでなく加工品や最終の需要者に使っていただくということで、6次産業化を含めて滋賀の食材をPRしようという試みです。

もう1点は、「おもしろいしが」という表現ですね。食べた人が「おいしい」、それを供給した人が「うれしい」、供給する人は流通業者さんであるし、あるいは食堂やレストランの方であるかもしれない。あるいはお店の人かもしれない。食を介したコミュニケーションということで新しい、いけば滋賀県のブランド化を図ってきたわけです。おかげさまで5年間の間に、推進店、サポーターに登録いただいた事業者数は年々増え続け、現在、推進店は267事業者、1,065店舗まで増えました。また、サポーターは185事業者になっております。その間、キャンペーン推進店の方々には、県産食材を積極的に活用いただき、県民の多くの皆さんにその魅力を伝えていただいております。県産食材を食べいただく機会が増えることは、地産地消を進める上でとても重要でございます。これからもキャンペーン登録事業者の方々と一緒に、滋賀の地産地消の輪を広げていきたいと思います。

そこで、今回5周年記念として、さらに多くの県民の皆さんに食材の魅力を知っていただくこと、8月17日から11月16日まで4回にわたり県内各地で4か月間キャラバン物産イベントを開催いたします。イベントにはキャンペーン登録事業者のべ80事業者が参加していただきます。

第1回目の8月は琵琶湖大橋の「道の駅」でございます。第2回目の9月は長浜の黒壁スクエア、大手門通りの商店街。第3回目は東近江市の大型ショッピングセンター。最後の11月は大津の養屋町商店街のアーケードでございます。

この5周年イベントの物産展に加えまして、より多くの方に知ってもらうため、8月から11月の間、FMラジオを通じて地産地消の魅力をたっぷり発信していきたいと思っております。番組は、8月4日から毎週日曜日11時55分から12時中に放送するエフエム滋賀のラジオ番組「おいしがうれしがススム隊」で、キャンペーン推進店の滋賀の食材を使った様々な取組や、その魅力を紹介をし、発信させていただきます。また、イベント当日には、エフエム滋賀のラジオ番組「モビィがおじゃまします!」でイベント会場より公開生放送し、イベントの様子や参加いただいているキャンペーン事業者の方の思いなどを発信させていただきます。

さて、今回は第1回となります再来週の土曜日8月17日のイベントについて詳しくご紹介いたします。イベントには、大津、栗東、東近江など12市町の22事業者の方々が出店されます。こちらにあります様々な県産食材を紹介、販売をしていただきます。こちらが出店いただく事業者の方々の商品の一部でございます。

夏といえば、やっぱり冷たいもの。これ!かき氷ですけれども、この氷の上の「青」、この「青」に秘密があります。草津に友禅の下書きをする「青ばな」、その「青ばな」が実は健康に良いということで、この「青ばな」粉末をシロップに使った珍しい「あお花かき氷」でございます。それから赤こんにゃくはお馴染みです。ラズベリージャムやいちじくジャムですね。それからJALレック大津の直売所グリーンファーム堅田店さんの比良スイカでございます。これは「環境こだわり農産物」の認証を受けておりますので、農薬や化学肥料は通常の50パーセント以下で作られております。今年は特に糖度が高くて美味しいと聞いています。

それから「とうふのレアチーズケーキ」は、県産大豆の豆腐と近江米の米粉が使われています。材料も地産地消にこだわっておられます。「おいしがうれしが」キャンペーンの取組をきっかけに豆腐屋の一体庵さんが開発された人気の商品です。その他にも、ふなずし、えび豆、近江豚の手作りチャーシューなど滋賀県の農畜水産物を使った魅力的な商品がそろっております。今日は皆さんに食べてもらえないのが残念ですが、ここにありますように滋賀県のおいしい食材を楽しんでいただき、それがどういふルートで供給されたんだろうと、私もいつも「飲水思源」と言いますけれども、飲食思源、食べて源に思いを馳せていただければと思います。そのことよって今の農業は様々な課題があります。困難に直面している農業生産者の皆さんに元氣を持っていただく、そういうチャンスにもしていただけたらと思います。



また、イベント当日は出店者の商品が当たるプレゼント抽選企画やミニライブなど盛りだくさんの内容となっております。発表は以上です。

また、イベント当日は出店者の商品が当たるプレゼント抽選企画やミニライブなど盛りだくさんの内容となっております。発表は以上です。

[PDF](#) [おいしがうれしが](#) (PDF: 2.190KB)



【知事が試食】

次は「わか」湖環境ビジネスメッセ2013」の内容がほぼ固まりましたので発表させていただきます。

今年で16回目となります、10月24日から26日までの3日間、県立長浜ドームで開催いたします。今回は、北海道から沖縄まで全国37都道府県および中国湖南省からもご参加いただき過去最多の314企業・団体が出展されます。出展規模も512小間と、2006年から連続8年で拡大してきております。2001年が高いのは、このとき2会場にしたということで、こだけ特別ですけれども、あとはずっと上昇傾向でございます。これは、滋賀の地で長年こわたり開催実績を積み上げてきた「わか湖メッセ」の取組が評価されたものと思っております。特に環境やエネルギー問題の解決に取り組まれている企業・団体の皆様から、厚いご信頼を寄せいただいていることによるものと、大変嬉しく思っております。

今年で16回目となります。10月24日から26日までの3日間、県立長浜ドームで開催いたします。今回は、北海道から沖縄まで全国37都道府県および中国湖南省からもご参加いただき過去最多の314企業・団体が出展されます。出展規模も512小間と、2006年から連続8年で拡大してきております。2001年が高いのは、このとき2会場にしたということで、ここだけ特別ですけれども、あとはずっと上昇傾向でございます。これは、滋賀の地で長年にわたり開催実績を積み上げてきた「びわ湖メッセ」の取組が評価されたものと思っております。特に環境やエネルギー問題の解決に取り組まれている企業・団体の皆様から、厚い信頼を寄せられていることによるものと、大変嬉しく思っております。

今年の特徴ですけれども、本県が強みを有する「水環境ビジネス」を推進するため、メッセでは初めてとなる主催者企画の特設ゾーンとして「水環境ビジネス推進プロジェクト」ゾーンを設置します。

この特設ゾーンでは、水環境関連の産業・研究機関の集積やこれまでの水環境保全の取組において有するポテンシャルを活かして、県内外の水環境関連企業の製品や技術等を展示いたします。また、友好提携30周年を記念して、中国国際貿易促進委員会湖南分会が、湖南省の企業5者とともに8小間に展示される予定です。湖南省の企業がこれだけの規模で展示されるのは初めてです。

また、メッセはこれまで2001年を除いてずっと平日に開催してきましたが、平日は来場が困難な皆様にも気軽にご来場いただき、ゆっくり見て回っていただけるよう、今年は10月26日の土曜日も含めて開催いたします。

会期中の3日間は、様々なセミナーや会議も行き、次世代エネルギーの動向や海外ビジネスの展開など、あるいは水環境ビジネスなどをテーマにしまして、充実したセミナーを全18本開催します。さらに出展者プレゼンテーションや屋外展示、地元商工会議所主催のビジネストリップ、工場見学も予定しております。一人でも多くの方にご来場いただきまして、メッセが活気あふれる見本市となりますよう、ご案内申し上げます。是非皆さんの広報方よろしくお願い申し上げます。

なお、会場周辺には駐車場がございませんので、公共交通機関と無料のシャトルバスをご利用いただきますようお願いいたします。

続きまして、「びわ湖環境ビジネスメッセIN海外」の出展者募集をしますので、ご案内させていただきます。

今年の新しい取組としまして、環境ビジネスに取り組む県内中小企業の皆様の海外展開を支援させていただくため、経済振興著しい東南アジアで開催される環境関連見本市に「びわ湖環境ビジネスメッセ」のパビリオンを設置いたします。今回は、このパビリオンに共同出展していただく県内企業を募集させていただきます。具体的には来年の3月13日から16日までの4日間、台湾の台北にありますタイペイワールドトレードセンターで開催される「第9回エコプロダクツ国際展」がございまして、この見本市は、アジア生産性機構(APO)という国際機関が主催しておられますが、これまでにAPO加盟国であるインドネシアやインド、シンガポールなどで開催されてきた実績がございまして、今回の出展分野は、再生可能エネルギーや省エネ、スマートグリッド、水処理などと大変幅広く、びわ湖メッセと同じ環境総合展でございまして、こちらの写真は、二年前の2011年にインドで開催された第7回エコプロダクツ国際展での日本企業のブース風景でございまして、

県内の企業の募集期間は、明日8月7日から9月13日までです。募集対象は、1点目は環境配慮型の製品、技術、サービス等を出展できる企業、2点目は中小企業または中小企業団体等、3点目は県内に本社、支社、工場、研究所等を有する企業等とさせていただきます。なお、これまでこびわ湖メッセに出展された県内企業は選考において優先させていただきます。募集数は10社程度で出展者には、出展料やブース装飾料を含め、一者あたり30万円までをメッセ事務局で負担させていただきますこととなります。応募多数の場合は、外部委員を含む審査会で選考し、9月27日金曜日までに各応募企業の皆様に選考結果を連絡します。詳しくはこびわ湖メッセのWebサイトをご覧ください。

環境ビジネスに取り組む県内中小企業の皆様の積極的なご応募、ご参加をお願いいたしまして私からの紹介とさせていただきます。

[PDF](#) [ビジネスメッセ\(PDF:2.141KB\)](#)

本日の3点目ですが、「滋賀県再生可能エネルギー振興戦略プラン」がこの3月に出来ました。

実はいつも申し上げているのですが、このエネルギー政策、実際は温暖化対策課で太陽光を進めるといようなことは滋賀県でも十数年前からやっておりましたけれども、エネルギーを作り出すというところは、ほとんど実際は関与していません。ですから技術、制度、あるいは仕組みづくりに対してのノウハウが余り蓄積されておられません。

平成21年のエネルギー基本計画にもはっきりと「エネルギー政策は国策」だと書いてあります。60ページほどのエネルギー基本計画の計画書も、「自治体について」というところは、たった半ページでございました。これくらい「自治体は関係ない」と蚊帳の外であった事業です。それだけに滋賀県では残念ながらエネルギーの専門家を養成できておりませんし、なかなかこれまでの蓄積もございません。そういう中で振興プランを作ったのは職員はじめ関係の皆さんのご努力の結果でございます。このプランを次の段階としてどう実現するかということで、再生可能エネルギーの先進地でもありますドイツを視察させていただきます。

8月12日の月曜日から17日まで、移動日を含めて6日間、再生可能エネルギー等の実情調査のため、ドイツ連邦共和国を訪問いたします。いま申し上げましたように、「滋賀県再生可能エネルギー振興戦略プラン」に基づき、今後、同プランの基本理念を実現していくための具体的な先進地視察となります。

特にエネルギー振興戦略プランでは、地域主導による地産地消型自立分散型エネルギー社会の創造ということを目指しております。「地域主導」、「地産地消型」「自立分散型」というキーワード、結果的にはそれにより経済も元気だし、そして石油なりウランなりという外のエネルギーに依存せず、身近な自然を活用できる自立分散型のエネルギーシステムを作ろうということでございます。

そのためには、効果的な地域づくりの取組を確実に進めてエネルギーシフトの実績を上げております、地域市民レベルでの多様な主体による再生可能エネルギーの先進地、ドイツを訪問します。

滋賀県と条件の近い内陸部ということで、ポーデン湖を抱える一番南側の州、バーデン・ヴュルテンベルク州を訪問します。私を含めて地域エネルギー振興室、温暖化対策課の若手職員と4名で視察を行います。

3箇所を訪問いたしますけれども、まずはフライブルクです。フライブルクは人口約22万人、バーデン・ヴュルテンベルク州の最も南側に位置しまして、これまでの環境・エネルギー分野における様々な取組から、ドイツの「環境首都」と言われてまいりました。大変有名な街でもあります。

具体的には市のエネルギー戦略として、省エネの推進、特にまちづくりの中で tram、LRTを柱とした公共交通や省エネ建築。さらに2点目は地域を全体で暖房して、個々の家でやるよりも効率化を図ろうという地域暖房とコージェネレーションを優先的に活用しています。3点目は再生可能エネルギーの推進ということで大きな成果を挙げてきております。

今回の視察では、市民出資のソーラースタジアム、民間投資の小水力発電、バイオマスコージェネレーションを活用した地域暖房、エコ住宅地ヴォーバン地区など、再生可能エネルギーを中心としたエネルギー分野全般にわたって地域主導による取組が展開されている事例を中心に調査を行います。

次の場所はシェーナウです。ここは人口2,500人程の大変小さな村というか町というか小さな山あいの地域です。バーデン・ヴュルテンベルク州の最南西端に位置しておりまして、この地に「シェーナウ電力会社」という住民が作り上げた電力会社があります。この会社は、1986年のチェルノブイリ原発事故を境として、あの時にドイツでも例えば畜産物が汚染され、チーズが食べられない、牛乳が飲めないということがございました。ちょうどその当時、子どもを抱えていた若いお母さん達が「原子力に頼らないエネルギーを」ということで運動を始めておりました。この方たちが自分たちで電力会社を作られて、再生可能エネルギーのみによってつくられた電力を提供しているドイツの電力会社4社のうちの1つとして成長しております。世界でも珍しい市民が作り出した企業でもあります。この経過を記録した『シェーナウの想い』というドキュメンタリー映画があります。私もこの映画を見させていただき、「これはすごい。是非とも学ばせていただきたい」ということで今回の視察地にも選ばせていただきました。市民・住民によるエネルギーシフトに大きく貢献している同社を訪問しまして、これまでの経過、ご苦労、今後の課題等についてお話を聞かせていただきたいと思っております。

3箇所目はシュヴァルツヴァルト、ドイツ語で「黒い森」を意味するバーデン湖沿いの地域ですけれども、再生可能エネルギーの導入を特に地域主導の小規模分散型で、ここでは協同組合や市民ファンドでなされております。株式会社の形式もあるということですが、民間主導の再生可能エネルギー事業が行われる際に典型的な地域であると同っております。それぞれの事業の特徴に合わせて使い分けられていることなど学ばせていただきたいと思っております。特にドイツでお近年、コミュニティが再生可能エネルギー設備を所有し、共同で運営・管理するのに適した「エネルギー協同組合」の設立が増加しております。その背景には、いかに自分たちで作りにくいのか、その組織としてエネルギー協同組合が適切であるという判断があるようでございます。地域の合意形成を容易にすること、資金調達が可能になることなどがあるということでございます。今回の視察では、こうした地域・市民レベルでの多様な主体による取組が実践されているドイツ語で「黒い森」を意味するシュヴァルツヴァルトを訪問させていただき、代表的なエネルギー協同組合および市民エネルギー企業の取組等について調査をさせていただきます。

また帰ってきてから報告させていただきますが、これからの滋賀県の再生可能エネルギー、特に地域主導でやっていくのどうしたら良いのかということの学びをさせていただきたいと思っております。ただ、日本には日本の様々な事情がありますから、これをどう応用するのかということは、来年度、再来年度に出来たら地域の住民の方と話し合いをしながら、最終的には住民主体で動けるように、私たちは出来るだけ黒子に徹して構想を作っていくとも思っております。

以上私の方からの3点の報告でございます。